

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24500261

研究課題名(和文)高度技術環境における共生社会の構築可能性に関する感性社会学的研究

研究課題名(英文)Studies of Kansei Sociology for Realization of Symbiotic Society in High-tech Environment.

研究代表者

土屋 淳二(TSUCHIYA, Junji)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：80287937

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、人間・環境・技術が織りなす「持続的共生社会」のあり方とその構築可能性について、高度技術が果たす社会的寄与の観点から究明し、経済至上主義や物質主義に基礎をおく近代産業型の価値理念や環境負荷型生産方式がもたらす過剰社会から、精神的豊かさと相互信頼を基礎とするポスト近代的価値や環境配慮型・対話型生産方式による共生社会へと指向するマクロ的社会趨勢を感性概念による近代価値の社会倫理的パラダイム転換として理論的に検証した。そこにおいて日本の市場指向性と産業政策が、伝統的な宗教精神性に依拠する共生思想に文化的に基礎づけられ、感性工学領域での産業発展の構造パターンを維持している点が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This research project has explored how the social function of advanced technology contributes to construct a global sustainability and social symbiosis, and analyzing theoretically the social macro trend of paradigm conversion from the modernist principle based on the economical supremacy and environment burden system to the new conceptual framework of postmodernist perspective which has been seeking to implement more social responsible and sustainable endeavors based on the symbiotic ideas and the environment conscious production system. In this regard, this research has discussed the two original Japanese cultural concepts, elaborated in the scientific scene in recent years, "kansei" and "kyosei" derived originally from the religious concept of symbiosis, which have been becoming the core ideas indispensable today for rethinking the structural conditions promoting the technological development faced to the problem-solving practices to the social responsible and ethical issues.

研究分野：社会学

キーワード：感性 共生社会 科学技術 感性社会学

1. 研究開始当初の背景

(1) 情報技術やロボット工学、医療・生命工学等の高度技術環境において、人間をとりまく社会環境が急速に変化している。近年の社会学においても監視社会論やポストモダン論などを中心に、従来の近代化論や産業社会論を基礎とする社会変動モデルや表層文化論からポストモダン論や「社会液化化」モデルを基本枠組みとする新しい理論的潮流が生まれ、近代化論が依拠する人間モデルやアイデンティティ問題を捉え直す研究が注目されてきた。そこでは従来の社会理論が前提としてきた「人間」の存在それ自体のあり方が問われているといつてよい。今日の先端技術と人間社会のあり方を省察するとき、擬人的機械システムや人工知能システムの社会的実現による「ロボットの人間化」(ヒト型ロボット)や情報技術の高度化がもたらすコミュニケーション形態の変容、「仮想空間の現実社会化」といった新たな社会趨勢、労働管理技術とマニュアル化等、身体加工技術(美容整形等)、医用工学・生殖技術の発達を前提とした人工装置の人間への「埋め込み」や「肉体化」、「人間のロボット化」という逆モーメントの社会現象が顕在化している事態を見過ごすことはできない。このような人間のあり方に関わる変容プロセスにおいて、社会的に究明すべき多様な問題群を認めることができる。

(2) 先端技術の社会的応用が及ぼす「人間・機械」関係と「現実・仮想」世界のあり方への影響を身体とアイデンティティの問題に関係する社会事象を切り口に、人間の感覚や意識がいかなる変容プロセスを経験しているのかに照準を向け、ヒト型ロボットの「人間化」と人間の「ロボット化」の接合地点において発生する人間と技術との「関係形成」のあり方を問うことが社会的な喫緊の課題となっている。この課題領域は、人間の感性に強く依存する技術開発と生活環境、両者の「共生」が、技術的な資材たるハードウェアと、デザインなどの審美的価値や人間関係に生じる経験価値に比重を置くソフトウェアとを融合するヒューマンテックな「センスウェア」の開発を要請している。

(3) 高度技術の開発とその社会的応用は、近代化モデルが前提としてきた経済・産業システムや企業・商業システム、さらにそれら生産領域に係る両システムに呼応する消費・生活システムのあり方の変容に決定的な影響を与えている。とくに低炭素排出・資源循環型社会の実現化におけるエコ関連商品や革新技術の開発などのグローバルレベルでの普及は、多様性の維持や共生社会の持続可能性を支柱とする社会的企てに貢献し、グローバル市場競争においても消費の公正性や倫理性への要請に回答すべく企業の不可

欠な戦略モデルへと結晶化しつつある。この側面において高度技術の及ぼす社会的影響はますます増大し続けている。

(4) 「人間・機械」や「人間・自然」という二元論的な対立概念にみる近代科学の「人間中心主義(*antropocentrism*)」への思想的脱却が進行している。高度技術社会の生み出す科学的知見とその工学的応用(機械・電子工学、医療・生殖工学から経営・組織工学など)が、現代社会における人間と機械・環境との関係において人間存在を絶対化する前提を相対化し、それらの共生的かつ調和的な社会発展モデルを要請している。

2. 研究の目的

(1) 高度技術環境にみる人間観や身体観の価値変容の実態を実証的に把握し、人間・環境・技術が織りなす「持続的共生社会」のあり方とその構築可能性について、感性社会学的視座から究明する。経済至上主義や物質主義に基礎をおく近代工業化の価値理念や環境負荷型生産方式がもたらす過剰社会から、精神的豊かさと相互信頼を基礎とするポスト近代的価値や環境配慮型・対話型生産方式による共生社会へ、と指向する今日のマクロ的社会趨勢を「感性」概念による近代価値のパラダイム転換として理論的に省察する。

(2) 高度感性社会」での事例調査を実施し、高度技術環境の感性化が多元的価値・を前提とする共生社会の構築に果たす社会的機能と意義について社会的に考察する。本研究は、高度技術環境にみる人間観や身体観の価値変容の実態を実証的に把握し、人間・環境・技術が織りなす「持続的共生社会」のあり方とその構築可能性について、感性社会学的視座から究明する。経済至上主義や物質主義に基礎をおく近代工業化の価値理念や環境負荷型生産方式がもたらす過剰社会から、精神的豊かさと相互信頼を基礎とするポスト近代的価値や環境配慮型・対話型生産方式による共生社会へ、と指向する今日のマクロ的社会趨勢を「感性」概念による近代価値のパラダイム転換として理論的に省察する。

3. 研究の方法

高度技術環境は、科学技術の開発援助や基盤整備等の公的支援を促進する政策的コンテクスト、経済市場や産業動向、民間需要等による経済的コンテクスト、技術発展に対する理解や社会文化的コンテクスト、人間観や身体観に関する価値変容を社会文化のおよび歴史思想的コンテクスト、による複合的形成プロセスにより実証的に把握しなければならない。本研究では以下の論点に

において課題に取り組むこととなった。

(1) 先端技術と人間との関係性における「感性」と身体問題の理論的考察(平成24年度): 「ロボット化する人間(身体)」と「人間化するロボット(機械)」との相互浸透にみる「ポストヒューマン」概念を人間の感覚・認識の観点から考察する。先端技術の身体への応用を促進/阻害する社会要因を抽出し、ヒューマンインターフェースとしての「感性」を社会装置として導入することにより、ミクロ・マクロ・レベルでの社会的相互作用プロセスをつうじて人間のあり方が環境や技術(機械)との関係性のなかで相対化される局面を明らかにする。具体的な論点としては、医用工学と身体変容(人工臓器、再生医療技術の「埋め込み」等)の社会的受容プロセス、審美的価値観と身体(感覚)変容(美容整形、身体改造)と身体所有権の外部化プロセス、労働管理技術にみる人間のロボット化(マニュアル化労働)の自己内部化プロセス、先端技術商品(擬人化された機械)に対する自己同一化と社会的態度の変容プロセス、自己ロボット化にみる集合的アイデンティティの社会的形成・共有化プロセス、「人間機械」関係にみる社会的カテゴリー再編プロセスの歴史社会学的考察、である。

(2) 情報空間と仮想的身体における感性の働きに関する理論的考察(平成25年度): 情報通信技術により具体化される「現実 仮想」融合世界でのコミュニケーション行為にみる「感性」の働きと意味について考察し、情報環境や仮想空間での「感性価値」が物質主義的価値を補完し、共生的ネットワークを構築する社会的機能を果たすことを明らかにする。ここでは、情報コミュニケーション(仮想現実空間)および産業生産部門(モード産業部門)での「感性価値」の社会構築プロセスに理論化の焦点を絞り、具体的な課題としては、仮想現実への帰属意識と身体感覚の変容(「脱肉体」化プロセス)、感性産業部門にみる先端技術の研究開発・商品化計画等における「感性」概念の応用事例、産業生産部門にみられる感性商品のブランド構築のあり方と市場戦略、感性商品の消費者への社会的浸透プロセスと消費性向(消費者意識)、である。

(3) 文化生産と消費行動に関する価値分析、および産業部門にみる感性の活用に関する感性市場モデルの検討(平成25-26年度): 感性の消費行動への影響効果と応用可能性について事例調査によって検討し、記号としての「感性価値」の先端技術商品への適用・普及可能性について考量する。また「感性産業」において生産部門と消費部門とが感性を媒介として結合されることで商品市場での共生的な消費行動が活性化される点を解

明する。ヒアリング調査の実施・分析(平成25年6月 平成26年5月)では、産業生産部門における「感性価値」の社会的応用に関する項目を中心に議論し、とくにモード関連産業部門において対象者として、先端技術(素材開発)企業等の技術生産者群、商品化計画に係る技術応用者群、業界・利益団体・組合による利益調整者群、マス・メディア(宣伝広告を含む)等の情報関連企業群、消費者団体・一般消費者群、パーソナル・メディア(ソーシャルネットワークサービス管理・利用者を含む)群、学術・教育機関群(ファッション専門学校を含む)、産業振興・デザイン政策に係る行政当局群(国・地方自治体、官民による第三セクターを含む)、1.芸術・娯楽を提供する商業的文化施設群、を設定した。

(4) 「感性価値」の社会倫理性と「持続的共生社会」の構築可能性の評価(平成26年度): [1]~[3]を踏まえ、各領域での多面的な「感性社会化」が、技術と環境との新しい関係性のなかで人間のあり方やライフスタイルを変容させ、企業活動の公正性、倫理的消費行動、環境配慮型技術開発など、共生社会づくりに貢献するマクロ的社会力となることを検証する。「感性社会化」の持続的共生社会づくりへの影響・効果に関するマクロ社会的理論のモデル化を試みる。具体的な課題としては、高度技術環境における「感性文化」の社会的浸透プロセス、感性を媒介とするパートナーシップ形成と共生社会の構築プロセス、企業の社会貢献・社会的責任行動(CSR)と消費者行動に果たす「感性」の社会倫理性、である。

4. 研究成果

(1) 「人間 機械」系と「人間 自然」系を基盤とする近代科学思想の枠組みを高度技術社会の諸コンテストから再考し、今日の「ポストヒューマン」概念の文化的源泉を明らかにした。人間のあり方は、「自然 人工」、「現実 仮想」、「物質 非物質(精神)」の3次元軸において多様化した存在へと変容している(図1)。

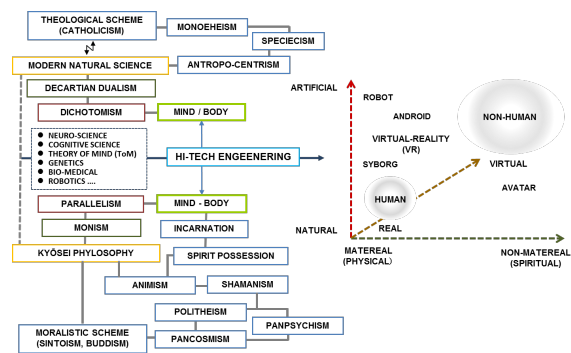


図1 人間概念と文化宗教的価値観

とくに文化的源泉において、伝統的宗教観や世界観にみる文化間の差異が現代社会の人間と技術との関係形成のあり方を左右している点が明らかにされた。また、ポストモダン論で議論されるポストヒューマン概念は、高度技術による多面的な側面からの身体観の変容プロセスをとおした社会的浸透として理論化される(図2)。

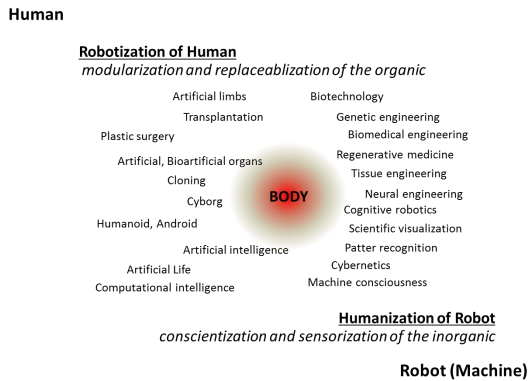


図2 高度技術と身体

(2)「人間 機械」系に係る関係性の変容はまさに近代化プロセスのなかで深化し、組織工学・経営管理工学にみる人間の数量化と労働環境における操作化という科学的合理性の追究にその源泉がある(図3)。

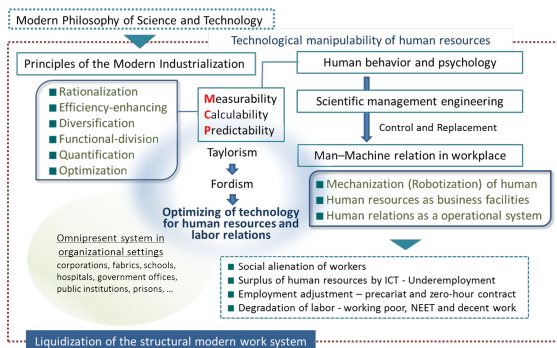


図3 人間概念と管理モデル

この点においては、従来の社会学的説明では「人間疎外論」や「歯車論」が議論されてきたが、今日の高度技術社会では「人間 環境」共生モデルとして議論する必要性が明らかとなる(図4)。

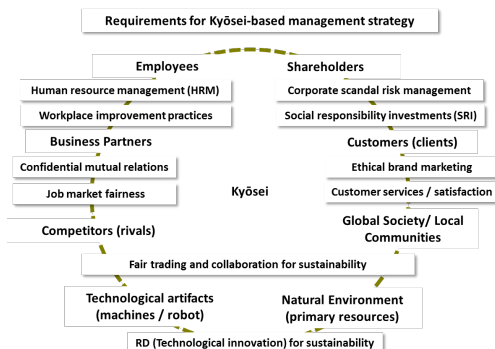


図4 「人間 環境」共生モデル

(3) 高度技術社会にみられる人間概念の変容は、今日の社会生活における脱人間中心主義的視座に支えられた自然環境や他者との共存関係や多様性の維持を図る多元性社会モデルの構築を理念とする世界観を覚醒させている。その世界観の枠組みは、共生社会の構築にむけた社会的企ての文化精神的基礎となっていることが事例研究において明らかとなった。

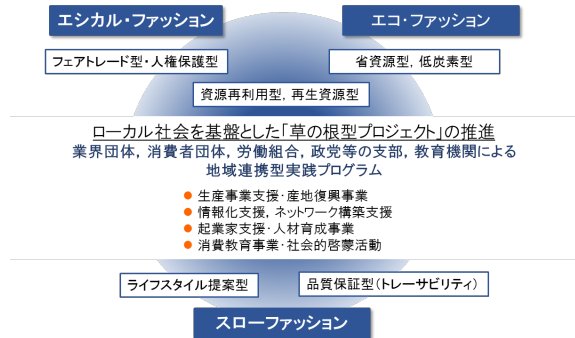


図5 脱人間中心主義的な企業戦略

持続可能性を前提とする共生社会を目指す社会モデルの新しい方向性において、人間の感性をつうじた非人間存在との調和的発展が要請されていることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計9件)

Tsuchiya, J., "La Nuova Tecnologia Sostenibile per Una Società Simbiotica dei Consumim," *Rivista PIC-AIS*, 2015, pp.34-36.

www.ais-sociologia.it/sezioni/processi-istituzioni-culturali/newsletter-pic-ais

Tsuchiya, J., "Ingegneria Kansei e Filosofia Kyōsei: Una Nuova Frontiera per la Teorizzazione della Moda Etica," A.M.Curcio (ed.), *Le Mode Oggi*, Lupetti Editore. 2015, [in print]

Tsuchiya, J., "Il Vantaggio Strategico del MADE IN ITALY nei Mercati Globali," *Quaderni- Pubblicazione periodica della Camera di Commercio*, 2013, pp.62-76.

Bruno Godey, Daniele Pederzoli, Gaetano Aiello, Raffaele Donvito, Priscilla Chan, Hyunjoo Oh, Rahul Singh, Irina I. Skorobogatykh, Junji Tsuchiya and Bart Weitz, "Brand and Country-of-origin Effect on Consumers' Decision to Purchase Luxury Products," *Journal of Business Research*, Vol.65, Issue 10 (October),

pp.1461-1470.

〔学会発表〕(計16件)

Tsuchiya, J., “Una Riflessione sul l’ Incarnazione Identitaria: La Tecnocultura e l’Animismo nello Spirito Giapponese,” Internatinal Conference: Media Mutations, Infiniti Mondi Possibili, Spereroi e Cosplay fra Moda e Immaginario Visuale Contemporaneo, Universita’ degli Studi di Bologna, Sede Universitaria Valgimigli(Rimini, Italy), 6 May 2015.

Tsuchiya, J., “Il tecnocultural ismo nell’età post-umana: nuove frontiere della modernità liquida per una società sostenibile,” XLII Convegno AISS: Arti del vivere e semiotica: tendenze, gusti, estetiche del quotidiano, Rimini(Italy), 4-6 October 2013.

Tsuchiya, J., “Il Tecnoculturalismo nell’ Età Post-umana: Una Riflessione Sociologica per il Futuro,” Dipartimento di Sociologia e Ricerca sociale, Università degli Studi di Trento (Italy), 12 March 2015.

Tsuchiya, J., “Nuove Frontiere della Tecnocultura nell’ Epoca Globale per Una Società Sostenibile,” Università degli Studi di Verona, Osservatorio sui consumi delle famiglie - OSCF, Dipartimento TeSIS - Tempo, spazio, immagine e società, e Dipartimento di Filosofia, Psicologia e Pedagogia, Verona (Italy), 19 March 2015.

〔図書〕(計1件)

Tsuchiya, J., M.Tessarolo and A.Marazzi, C.L.E.U.P, *Stili Glacali: Forme e Tendenze di Mode Giovanili*, 128.

6. 研究組織

(1)研究代表者

土屋 淳二 (Tsuchiya, Junji)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：80287937